

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|--------------------|
| 事業所番号 | 4071602470 |
| 法人名 | 有限会社 Kふあみりい |
| 事業所名 | グループホーム みどりのうた |
| 所在地 | 福岡県久留米市東櫛原町1647番地6 |
| 自己評価作成日 | 平成30年2月24日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|---------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年3月3日 | 評価結果確定日 | 平成30年3月27日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた開放的な環境の下、併設する「小規模多機能型ホームみどりのうた」との連携により、多様なニーズに応える体制を整えています。入居者様一人一人が、穏やかな時間の流れの中で、生き生きとした生活を送れるようなサービス提供を目指しています。看取りに対しても職員全員が真摯に取り組んでいる事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームみどりのうたは、住宅街の中、緑豊かな公園を背に居を構える2階建て2ユニットの事業所である。室内は、施設特有の直線的で無機質な造りではなく、一般家屋を思わせるコーナーも意図的に施され、抑えた照明と共に落ち着いた雰囲気印象的である。裏手には、隣接する小規模多機能型施設へとつながるウッドデッキが設けられ、入居者はレクリエーション参加等で利用している。その往来時、背後に控える公園の緑や季節の花が楽しめ、格好の散歩道となっている。ティータイムや入浴時等、選択肢や自己決定を尊重した柔軟な対応が確認出来る。同様に日々の受診や、重度化対応、看取りについても個々人に応じた対応をきめ細やかに対応している。また運営推進会議や権利擁護、防災の面からも、地域住民とも密で多様な連携関係が築かれている。代表者は地域の社会資源を活用しながら、利用者が過ごしやすく、職員が働きやすい空間作り、日夜奮闘している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | | |
|--------------------|--------|---|---|--|-------------------|
| 自 己 | 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝のミーティングにおいて理念を唱和し、職員間での理念の共有を徹底している。 | 設立時より、地域密着型サービスの意義を踏まえた、独自の理念を作り上げている。キーワードとなる言葉に対しても、代表者は明確な定義づけや日常業務に関連しての説明が出来ており、その説明を通して、職員間で共有を図りながら、日々実践に努めていることがうかがえる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地区子供会の行事にホームを開放することで、地域の一員としての役割を担っている。 | 自治会長や民生委員、子ども会の役員等の住まいが近所にあることから、地域行事だけではなく、日常的に交流が持たれている。代表者と職員は地区の懇親会にも積極的に参加し、親睦を深めている。郵便局長や司法書士とのつながりも生まれ、利用者支援にもつながっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地区の懇親会等を通じて、認知症に対する正確な情報の告知に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、地区代表者以外にもご家族が多数出席され、積極的な意見交換を行っている。 | 運営推進会議は、自治会長、民生委員、消防団、子ども会会長、地域包括支援センター、市福祉担当者、家族代表等、多様なメンバーの参加で、2か月に1回開催。運営・活動報告等が行われ、議事録からは、忌憚のない意見交換の様子が確認出来る。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 日頃から市担当者との情報交換を密に行い、緊密な協力関係を構築している。 | 市担当者とは、運営推進会議だけではなく、電話や訪問を通じて、頻繁に情報交換や相談等を行っている。行政より指導を受けた事案に関しても、迅速な対応に努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「身体拘束ゼロ」の指針に則り、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 人権や身体拘束、自己決定等に関して学ぶ機会を持ち、職員の意識向上に取り組んでいる。また、全職員に虐待予防チェックシートを配布し、身体拘束ゼロに向けて取り組んでいる。行政より指導を受けた事案に関しても、迅速な対応に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員間の連携により、虐待等が見過ごされないような意識の徹底を目指している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 地域の専門家(司法書士)との連携により、成年後見制度を活用している。 | 代表者は、制度の意義や必要性について理解しており、必要性のある利用者に制度について説明・提案を行い、制度利用につなげている。また、運営推進会議の中で外部講師を招き情報提供を行う予定もあり、職員は、内部研修や、実際の活用を通して、制度についての理解を深めている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結等の際には、書面を提示しつつ、時間をかけて丁寧な説明を行い、ご家族等の不安解消に努めている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や家族の来所時の機会を捉えて、積極的に会話を行い、要望を迅速に運営に反映させている。 | 家族の代表者が複数参加している運営推進会議や面会時にコミュニケーションを図りながら意見の収集を行い、一人ひとりの要望が運営に活かせるよう努めている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議等の場だけでなく、随時運営に対する意見を聞く機会を設けている。 | 会議の場だけではなく、平素からコミュニケーションを図りながら、忌憚のない意見や提案が出来る環境作りに努めている。最近では、要望を受け、職員休憩室を設置する等の試みも行われている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 行動評価シートを用いた客観的な給与体系の整備、処遇改善加算を活用した給与水準の引き上げを行っている。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用にあたって、性別等による差別は行っていない。本人の仕事に対する意欲を重視している。 | 職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。実際に幅広い年齢層の職員が勤務している。外国人の採用も見られる。代表者は、職員一人ひとりの個性や思いを尊重し、かつ多様性を育みながら、働きやすい職場作りに努めている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権、特に入居者様の自己決定権を尊重するための人権教育に取り組んでいる。 | 代表者は、人権の尊重が最上位の概念であることを認識し、職員に対しては、外部研修や日常業務を通しての人権教育に努めている。全職員に冊子『虐待予防チェックシート』を配布し、周知を図る等の取り組みも確認出来る。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人ひとりの経験・技量に応じた研修への参加を支援している。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内介護事業者協議会に加入し、同業者と交流・意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前の十分なヒアリングを行うことにより、本人の要望をくみ取り、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前の十分なヒアリングを行うことにより、家族の要望をくみ取り、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 併設する小規模を含めて、本人に本当に必要なサービス情報の提供に努めている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生の先輩である入居者様と正面から向き合って支援を行うことにより、共に生活する者としての信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 21 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と本人の大切な時間を尊重し、家族が支えることが困難な部分を職員が共に支えるよう心掛けている。 | | |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人たちとの交流を積極的に支援している。 | 事業所を常に開放することにより、入居者の馴染みの人の訪問が出来やすい環境作りに努めている。実際に、家族、友人、知人の訪問が多く、ともに歓迎し訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている | ホームという社会の中で、利用者同士の関 係性を職員一人ひとりが十分に把握し、で きるだけ通常の社会と変わらない人間関係 を構築できるよう努めている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了した利用者の家族等に 対しても、行事等の案内を行い、参加して頂 いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている | 本人との対話、観察を通じて、常に本人本 位の支援に努めている。 | 日頃から対話を大切にし、何気ない会話や行動 の中から潜在化する思いや意向の把握に努めて いる。家族の協力も得ながらセンター方式を活用 し、生活歴を含め、一人ひとりの思いの把握に努 めている。併せて家族や友人からの情報提供を 活かし、本人本位の検討を行っている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている | センター方式等を活用して、一人ひとりのこ れまでの生活歴等の把握に努めている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている | 定期的なバイタルチェックや介護記録をもと に、一人ひとりの状態の変化の把握に努め ている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している | 本人、家族、医療関係者と十分に話し合 い、現状に即した介護計画を作成している。 | センター方式、及び日常的に把握している情報 を活用しながら、一人ひとりの状態に即した計画 を作成している。定期的、及び必要に応じて、本 人や家族、医療関係者等の意見を参考に見直し を行い、現状に即した計画となるよう努めている。 | 職員個々がアセスメントやモニタリ ング等に関わる機会を持ち、意見の反 映や介護計画に基づいた実践に結び 付けていくことが期待されます。 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている | 一人ひとりの個別記録を整備し、職員間の 情報共有に生かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設する小規模多機能型ホームを有効活用することにより、多様なニーズに柔軟に対応している。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の催し物に参加したりして、本人が豊かな生活を楽しめるよう支援している。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的に本人及び家族の希望をもとにかかりつけ医を決定し、受診支援を行っている。重度化等に応じて適切な医療が受けられるよう家族と相談の上往診対応できる医療機関への変更も支援している。 | 本人・家族の希望を尊重し、入居前からのかかりつけ医と関係を築いている。定期受診、及び体調不良時の受診と、看護師同行で、きめ細やかに対応している。事業所の予定表の記載からその実践の様子が確認出来る。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職は、個々の利用者の小さな変調を捉えた場合にも看護職に報告し、適切な医療的支援を受けられるよう努めている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関との情報交換を密接に行い、早期退院の受け入れ体制の構築に努めている。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人や家族の意向を踏まえた話し合いを行い、主治医、訪問看護との連携を取りながら、看取り支援に積極的に取り組んでいる。 | 入居前から、指針に基づき、本人・家族に説明を行っている。本人や家族、事業所、連携医との話し合いをもち、その都度、方針を共有しながら取り組んでいる。実際に看取りについても積極的、かつ細やかに取り組んでおり、多くの実績もある。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時に備えた対応マニュアル等を職員に配布し、また、看護師の指導の下、緊急時の対応を日々研鑽している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域住民にも呼び掛けて、年2回火災訓練を実施している。 | 主に火災に対しての訓練を年2回実施している。内1回は消防署の立会や夜間想定も含まれる。防災設備点検についても適正に行われている。訓練について、地域住民の参加には至っていないものの運営推進会議のメンバーに地域の消防団員がおり、平素から現状把握はなされており、水害時のシミュレーションも実施されている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者のプライバシーを損なうような安易な声掛けをしないよう職員同士が確認し合うよう努めている。 | アセスメントを踏まえ、言葉掛けに留意しながら、一人ひとりの生活習慣やリズム、自己選択・決定の尊重に努めている。お茶やコーヒー等の嗜好品、入浴時の石鹸、シャンプーについても、個人のニーズに合わせ、全て異なる物を準備し提供する等の実践も確認出来る。 | プライバシーについては、羞恥心への配慮も含まれることから、排泄の支援等についても、左記同様のきめ細やかな取り組みを期待したい。 |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりの状態に合わせて、本人が自己決定できるよう努めている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活リズムを尊重しながら、毎日の支援を行っている。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣時に本人に好みの服装を選んで頂いたり、要望に応じた整髪をお手伝いしている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と職員が同じ食事をとることにより、食に対する共通の話題を楽しんでいる。 | 地元のお米と野菜を使用し、入居者の好みや季節感を反映した献立に努めている。その内容は家庭的で、バリエーションに富んでいる。併せて、細やかに一人ひとりの状態に応じた形態での提供を行っている。入居者は、配膳や片づけ等、出来る範囲での役割を担っている。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態に応じて、食事を食べやすい形状に変更したり、水分摂取が難しい場合にはゼリー状にしたりして、対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯ブラシが使用できない場合、口腔ケア用スポンジを使用する等、本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、また、何気ない本人のサインを見逃さずに、トイレ誘導を行っている。 | 排泄チェック表をもとに、一人ひとりの状態やパターンを把握し、基本的にトイレ誘導を行っている。言葉掛けや、時間帯、立ち上がり等のサインにも留意している。献立には野菜を多く取り入れ、ヨーグルトの摂取等、個別の便秘予防に配慮している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 繊維質の多い野菜中心の献立を提供している。また、ヨーグルトを摂取して頂いたり等個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その日の体調等を考慮して、出来るだけ本人の希望に沿った入浴支援を目指している。 | 週に2~3回、昼間に入浴を行っている。希望があり、対応出来る場合は、毎日でも可能である。職員都合ではなく、一人ひとりの好む温度や時間に応じる等、柔軟に対応している。石鹸やシャンプーについても、共用はなく、好みに応じて違う物を使用する等の配慮も行っている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の生活リズムに応じて、昼寝やうたた寝も必要な時間として支援している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 調剤薬局の指導を受けながら、一人ひとりの服薬管理を行っている。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ネット動画等を活用して、好きな時に好きな映像(歌番組、スポーツ中継、時代劇等)を楽しんで頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの状態に応じて、外出支援等を行っている。 | その日の天気や、入居者の状態に応じて、散歩やドライブ等の外出支援を行っている。公共施設や公園等を活用し、イベントや季節の花見等に出掛けている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭は、原則として、家族及びホームが行っている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 職員が家族の電話を取り次いだり、家族からの手紙のサポートしたりしている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間における過剰な装飾は避け、窓から見える季節感のある自然の風景を楽しむような空間利用を行っている。 | 抑えた照明に室内は落ち着いた雰囲気を与える。施設特有の直線的な造りではなく、一般家屋を思わせるコーナーも見受けられる。空気清浄器や加湿器が置かれる等の配慮も確認出来る。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 時には併設の小規模多機能型ホームを活用して、一人ひとりがプライベートな時間を楽しめるような配慮を行っている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人や家族の意向を合わせて、本人が使い慣れた家具や調度品を持ち込んで頂き、住み慣れた環境の継続を支援している。 | 居室は畳とフローリングで選択出来、ベッドも本人の状態に応じて使用出来るよう3種類準備している。各居室には、調度品を始め、これまでの暮らしぶりをうかがわせる物が持ち込まれており、疾患に応じてベッドの高さを工夫したり空気清浄機を設置している。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室のドアに目印となるものをつけたり、暖簾を下げたりして、本人の自立した行動の確保を支援している。 | | |